

令和5年度 第1回 大衡村総合教育会議 議事録

日時：令和5年12月25日（月）

午前11時00分から午前12時05分

場所：大衡村役場2階 会議室

○出席者：大衡村長 小川ひろみ，教育長 齋藤浩
教育委員 齋藤さと子，教育委員 佐竹由加，教育委員 文屋栄悦
学校教育課長 森田祐美子，学校課長補佐 布施智宏
社会教育課長 大沼善昭，課長補佐 浅野めぐみ
総務課長 早坂紀美江，主事 伊藤花奈（書記）

○欠席者：教育長職務代行者 渡邊勇

1. 開会（進行：総務課長 早坂紀美江）

開会時刻：午前11時00分

2. 挨拶（大衡村長 小川ひろみ）

[省略]

3. 協議…大衡村総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により村長が議長となり進行する。

（1）長期欠席・いじめ等の状況について

<小川村長>早速、協議に入ります。協議の(1)長期欠席・いじめ等の状況について説明をお願いします。

<森田課長>（資料1に基づいて、説明）

<小川村長>長期欠席・いじめ等の状況について皆さんから何かご意見等々ありましたらお願いします。

<齋藤委員>いじめは子供が成長する中で人に嫌な思いをさせたりさせられたり成長段階であることだと思うが、そうなったときの親や先生の対応の仕方、その子供の成長が変わってくるのではないかと感じている。ただ、対応の仕方は必ずしもこれが正解というのがなく子供の数だけ対応の仕方があると思う。そのことも含めて長期欠席やいじめがあった場合に、子供のケアだけでなく親

のケアや支援がとても重要だと感じるが、ケアが必要だと思われる人ほど支援を求めないことが多いというのをよく聞く。私自身子育ての中で、いろんな人の話を聞いたり、自分の話を聞いてもらったりして心が救われたことがたくさんあった。それだけで親の性格が急激に変わったり、環境が変わることはないが親の心持ちが少し変わるだけで、子供に大きく影響することが多いのではないかと思っている。親自身が心の安定を図って子育てできるような環境ができたらと思う。学校の先生だけに負担をかけられないが、大衡村ではスクールソーシャルワーカーが活動している。家庭訪問等で信頼関係を築く、今時ではないかもしれないが、大衡村独自のやり方で寄り添える方法はないものかと感じる。

<齋藤教育長>昔は家庭訪問という一大イベントだった。親は子供の学校の様子を聞き、先生は家庭の状況を把握したりとそれで信頼関係が構築されていた部分はあると思う。今は一切なくなってしまった。玄関先ならまだいいが今は場所を確認するだけになっている。それがいいことなのか悪いことなのか判断は難しいが、家庭と先生とのつながりは希薄になっていると思う。どこでも同じような状況だと思うが、福田参事から実態を話していただければ。

<福田参事>齋藤委員のおっしゃるようないじめは保護者にとっても不安が大きく、保護者の心の安定が子供の心の安定につながるというのはその通りだと思う。今のいじめの概念は受けたお子さんが、心が苦しいと感じたらそれは全たいじめになる。これを学校、保護者だけではなく地域も認識して子供を育てることが大事だと思う。大衡村についてはたくさんの地域の皆さんに関わっていただいているので、地域の皆さんにもこの認識を持って働きかけていただくことが思いやりの心を育むことにつながっていくのではないかと感じる。いじめを受けたお子さんのケアとしては、スクールカウンセラーが小・中学校に各1名、スクールソーシャルワーカーが1名いる。保護者が不安を感じた時に、幼少期から相談していた健康福祉課に相談しそこから繋がるケースもある。学校でも親と話し合いをしていく中でスクールカウンセラーに関わってもらうこともある。今後、親のケアと子供のケアについて、学校やそれ以外の機関にも繋いでいけるように考えていきたい。

<小川村長>子供のケアだけでなく親のケアも今後求められるようになっていくと思う。今は様々な面で関わりが薄くなっていると感じる。

<文屋委員>いじめとは直接リンクしない話になるが、今後大衡村は半導体の工場が来る

ことにより、過去にない変革を遂げる時期に来ていると思う。世界的な企業が来ることで行政も住民も全て変わり、それを受けて子供たちも影響を受けていけらるかと予測される。地域で子供を育てるといっても、口を出せる時代ではなくなってしまった。そういった中で子供が地域との関わりを持つために提案させていただきたいのだが、他自治体で「ファミリーサポート」というのをやっている。これは、例えば親が風邪をひいて学校に送っていけないという場合に、登録している第3者が迎えに行き、地域で支援していこうというもの。ニーズがどれくらいあるかだが、これから大衡村も地域の方が関われるシステムがあればいい。子供との接点があれば、第3者との会話の中で学べるものも出てくるのかなど。他自治体の「ファミリーサポート」の状況を見ながら、大衡で取り入れられるものがあればそのような関わりがあってもいいのかなと思う。

<小川村長>すごく良い地域との関わりだなと。半導体の工場が来ることによって本当に地域がどのように変わるかが全然わからない。熊本の菊陽町はTSMCが進出してもう2年で来年の4月からは稼働開始になる。一番大変なのは交通渋滞の問題もあるが、ものすごい変革を遂げて町が一変したことと町長から話があった。台湾の方も200人から300人の方が移住するが、その方たちがどこに生活圏を持つかによっても全然違ってくる。これからは動向を見ながら村としてもスピーディな対応を求められる。文屋委員のおっしゃる通り、地域でサポート事業を実施することで少しでも関わりを持って助けられる事業を考えたい。また、今は無料というものはないし、ボランティアといっても何でもただでやってもらう時代は終わったと思っているので、そのあたりも考えていきたい。

一つ気になったのが、非行の状況で授業の抜け出しが毎月のように小学校であるが、一人なのか何人かいるのか。

<森田課長>人数は4年生で1名、5年生で2名、6年生で5名の合計8名。内容については福田参事から。

<福田参事>授業を受けているときに自分の気持ちが収まらなくて周りの子に話しかけたり、廊下に出てうろうろしてしまったりというのがある。一部の子であるが、それにつられてしまう子が何名かいたり連鎖してしまうところがある。

<小川村長>授業の方は進められているのか。

<福田参事>担任は学級全体の掌握、指導に入らなければいけないので、教室を抜け出し

た子については生活支援員の支援，職員室にいる教員の支援になる。個別に気持ちを落ち着かせて学習に取り組みさせるような状況で，多少落ち着いたら教室戻ろうとなっている。

<小川村長>昔では考えられない状況だなと。私の中では授業参観に行くとみんな座ってたなという印象。授業を抜け出すというのが日常茶飯事だと思うと，本当に地域でサポートして見守っていくのが必要かなと思う。先日フリー参観があったようだがどれくらいの方が参加したのか。

<福田参事>人数は把握していないが，このような状況なので教員だけでなく保護者にも協力いただきたいということで，フリー参観という形で子供たちの見守りをしていただいた。ただ，見守りはその時良くても大人がいなくなるとまた気が緩んでというのがある。このお子さんたちについては，保護者にも事実を伝えて子供と保護者と学校と三者で話をしているが，話をしてすぐ行動が良くなるかというところではない。学校では授業の中で一生懸命取り組んでいる過程や，ちょっとでもできたところをすぐに見つけて褒めたり，それを保護者に伝えたりしている。授業改善をしながら子供の良さを見つけて伸ばしていこうというのをやっている。周りから認められるというのが今大事なのかなと思っていて，その子たちの心が満たされることで改善していくのではないかなと思っている。中学校とも連携を密にとっていて，中学校の先生にはこれから受け入れるお子さんだという認識で交友活動をしていただいている。

<小川村長>あいさつでも言ったが，コロナ禍により家庭環境が大変になったり様々な面で影響が出ている。今は ADHD 等も一因になっているのかなと思う。

<福田参事>コロナが5類移行になって関わりが増え，子供たちがトラブルを起こしやすい状況。ただ，トラブルが起こったときにどう対処するかがなかなか身につかないまま来て，それがいじめにつながるというのも報告されている。学校の見立てによるものではあるが，ADHD の疑いのあるお子さんが本村でも増えている。先日校長会で話題になった話の中で，ADHD だと思ってしまうが，実は家庭環境の問題で，朝ご飯を食べて来ない，睡眠時間が短い。先日の全国学力状況調査の意識調査の中でも，朝食を食べて来ない児童・生徒の割合が高い状況にある。私も現場で見えてきたが，朝ご飯を食べて来ないと朝からダメ。こういう行動の一因になっている。

<小川村長>一人がやることで連鎖反応が生まれたりもしますよね。

<福田参事>あとは夜遅かったり、ゲームのし過ぎだったり。同時進行で家庭の協力も必要になってくると現場を見て感じた。

<小川村長>今日の新聞に、食糧支援を申し込んだひとり親世帯を対象とした NPO 法人の調査によると、暮らしが苦しいと答えた人の割合が 98%。米が買えない時があると答えた人が 65%、子供のおもちゃや文具が買えない時があると答えた人が 75%となっている。米が買えない状況というのは大衡では考えられないと思うが、もしかしたらあるかもしれないなど。朝ご飯を食べて来ないのではなく、米がないということももしかしたらあるかもしれない。佐竹委員は子育てしている身として何かありますか。

<佐竹委員>入学がコロナ禍の時期だったので、行事が無くなり学校との距離が遠いなど思うことはあった。相談したいと思ってもすぐには行けない。いろいろな相談機関があることを親御さんも分かってないのかなと思った。地域の人との関わりも、自分は元々あまり参加しない方だったが、親が参加しないと子供も参加できないので、今は地域の行事があれば積極的に参加している。

<小川村長>地域の行事は大事ですよ。私も衡東地区の芋煮会に参加したが、それぞれ役割を決め、必ず子供を入れることで自ずと親も参加する。行事があまりない地区もあり地域によって差があるなど感じる。ときわ台地区の芋煮会は具材など全部ネット注文。地域の色を出していくのがいいのではないかと思う。

(2) 大衡城の在り方について

<大沼課長> (資料 2 に基づいて、説明)

<小川村長>皆さんから何かご意見ありますか。

シロアリ、雨漏りがすごい状況になっている。委員の皆さんはご覧いただいたことがあるか。ないのであれば見ていただくことも必要と思う。

<齋藤教育長>去年から検討を重ねて、方向性としては取り壊す方向で使用についても制限をかけている。ただ、デマンド交通の事務所になっているという状態。教育委員会の方向性としては決まっているので、それを移すのと、どのように処分していくのかの部分で村長部局と具体的にどう進めていくか検討し

ていい時期なのかなと思う。使っているところとの調整を早めにして、スケジュール的なものもある程度組んでおく時期に来ているのかなと。

<小川村長>壊したその後にもどうするかも検討が必要。教育部門としては資料館がある。今のところ多目的施設の下の体育館に移す予定なのか。

<大沼課長>そこがいいのではないかと教育委員会では考えている。

<小川村長>移動するにあたって、今後の在り方も検討し、全部移すか、ある程度の数に絞るのかも教育部局で話してほしい。あとはやはり現場を見ていただきたい。それからこれは話すべきだと思う。多目的も見ていただいてどんな形にするのか、そういう部分も含めて考えていただければと思う。

<齋藤教育長>ちなみに多目的施設の下部分は貸出できる施設にしているはずなのに、使えなくしてますよね。

<小川村長>全然使えなくしている。その通り。

<齋藤教育長>行き止まりにしている状態でそういった計画を立てられてもってなと思うので、一緒に打ち合わせをしながらやらないとダメだなと思っている。

<小川村長>そこも併せてやっていかないといけない。いつか教育委員の方々にはそこを見ていただく現地調査をお願いしたいと思う。
最後になるが、これから学校の人数がどんどん減ってくる。生まれる子供の数も減っていて、今年度においては18人。その前が27人。その前が32人という形でほぼクラスになる。3歳児が32人になるから3年後、4年後にはそうなる。もしかしたら半導体のプロジェクトによって、ここに移住する人がいて増える可能性はあるが、ほぼそういう見込みはないと考えなければいけない。
その他として皆さんから何かありませんか。

<齋藤委員>小学校の前の段階でこども園さんがある。私は子供が大衡幼稚園だったのでこども園さんは経験していないが、親御さんから遊びよりもお勉強がメインだという話を聞いて、その流れがなんとなく今の年代の子たちに来ているのではないかなと。中々落ち着いて授業を受けられないという根っこのところがそこから来ているんじゃないかなと。

<小川村長>今の高校2年生が最初の卒園生。

<齋藤委員>その年代の子たちからすごく落ち着かなかつたり、教育委員をさせていただいて見えてきたところ。小学校高学年で騎馬戦が無くなった、組体操が無くなった、小学校の遊具が老朽化で無くなったものもあるけど、子供が危険だからと無くなったものが増えてきて、根っこの部分で子供時代に遊びの経験がちょっと少なくなってきたのかなと。

<小川村長>ストレスになってきてますよね。

<齋藤委員>そういうのも含めてこども園さんでは取り組みも考えていってほしいな、というのが親目線という感じ。

<小川村長>貴重な意見だと思う。しかし私立なので教育委員会としてはそこまで関与できない。今は幼稚園無償化になったのでどこの幼稚園に行ってもいい。こども園に縛られることなく、自分で見て自分で通わせたいところに。今幼稚園バスを利用しているのはほんとに少数。幼稚園部として送迎してる方が5名でしたね？

<齋藤教育長>今年はちょっと分からないですけど。

<小川村長>去年でしたっけ？デマンドで送ってる子供さん。何人でした？

<森田課長>デマンドは今年度から。人数は把握していない。

<小川村長>多分少ない人数になっている。来年度から給食費に対しても、ききょう平と万葉こども園だけに給食費の補助をやっていたが、どこでもできるようにする予定なので、縛られた感覚ではなく、自分の方針に合うところを選んでほしい。

<文屋委員>大衡は大きなポイントに差し掛かっている。子供たちが新しく入ってきた人たちに、自分たちが住んでいる大衡はこんなに素晴らしいんだよ、ということと言えるような環境づくりが必要。

<小川村長>今お話があったように、ときわ台南に移り住んで家を建て、子供が3人いるご夫婦から、「子供がいずれ学校で離れたり、結婚して離れたりしたときにここはふるさとになる。その時に子供たちがわくわくするようなふるさとに

してほしい」とお話をいただいた。まさにその通りだと思う。離れた時に良いところだったと、ふるさと愛を持つ子供たちに育てていかなければいけない。

<早坂課長>以上をもちまして令和5年度第1回大衡村総合教育会議を終了します。
ありがとうございました。

4. 閉会

閉会時刻：午前12時05分

以上